



ORIENTAL STUDIES TRIPOS Part I

Japanese Studies

Thursday 5 June 2008 13.30 – 16.30

J.2 MODERN JAPANESE TEXTS, 1

Answer **both** sections.

*Write your number **not** your name on the cover sheet of each Section booklet.*

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you may
do so by the Invigilator.

SECTION A

1 Translate into English [40 marks]:

母はキャバレーに勤めはじめて二年ほど経ったころ、客のひとりだった藤木と深い関係になつた。そしてある夜、父の留守を狙つて、まどめておいた荷物を藤木の車に積み込み、私と弟を連れて家を出た。妹は玄関の柱にしがみついて泣きじゃくり外に出ようとはしなかつた。母はあとで迎えにくるからといい含めて車に乗り、藤木が用意していたマンションに向かつたのだった。しかし結局妹は父とふたりで暮らすようになった。藤木は妻子がいるので、平日は会社が終わると真っ直ぐ私たちのマンションにやつてきて夕食を食べ、母とふたりで風呂に入り、十二時になると家に帰つた。週末は妻子とともに過ごすのだが、月に一、二度出張だと偽つて妻が用意した旅行バッグを持って泊まりにきた。このローテーションは二十年経つた今でもきちんと守られているようだ。藤木は小遣いの四万を抜いて給料をそつくりそのままに妻に渡すため、母はスナックや焼鳥屋などの水商売で生活費を稼いできた。藤木も夜はバーテンをしたり、焼鳥を引っ繰り返したり、帳簿をつけたりもしている。思いがけず焼鳥屋が流行つてかなり儲かつた時期に、北鎌倉の駅から徒歩二十分もかかる土地を買い、家を建てた。

藤木 ふじき (名前)

狙う look out for, take advantage of

柱 post, pillar

しがみつく cling to

いい含める explain

偽る pretend

小遣い

水商売

引っ繰り返す

帳簿

儲かる

spending money

entertainment business

flip over

accounts

make a profit

Yū Miri, 'Kazoku shinema', in *Kazoku shinema* (1997), pp. 68-9.

SECTION B

Candidates should answer TWO of the following three questions:

- 2 Translate into English: [30 marks]

汽車は今、間々田の停車場を出た。近くの森から蜩の声が追いかけるように聞える。日は入った。西側の窓にいた人々は日除け窓を開けた。涼しい風が入る。今しがた、母に抱かれたまま眠入った赤児の一寸ばかりに延びた生毛が風におののいている。赤児の軽く開いた口に何か考えていたが、時々手のハンケチで蠅をはらつた。しばらくして女の人は荷を片寄せ、そこへ赤児を寝かすと、信玄袋から端書を二三枚と鉛筆を出して書き始めた。

(continued on next page)

(TURN OVER

けれども筆はなかなか進まなかつた。

「母アさん」景色にも厭きて來た男の子は、ねむそくな眼をして言つた。

「なあに？」

「まだなかなか？」

「ええ、なかなかですからね、おねむになつたら母アさんに倚りかかつて、ねんねなさいよ」

「ねむかない」

「そう、じや、何か絵本でも御覧なさいな」――

男の子は黙つてうなずいた。母は包みの中から四五冊の絵本を出してやつた。中に古いパックなどがあつた。男の子は柔順しく、それらの絵本を一つ一つ見始めた。その時自分は、後ろへ倚りかかつて、下目使いをして本を見ている男の子の眼と、やはり伏目をして端書を書いている母の眼とが、そつくりだということに心づいた。自分は両親に伴われた子を――例え電車で向い合つた場合などに見る時、よくもこれらの何の類似もない男と女との外面に顯われた個性が小さな一人の顔なり、身體つきなりのうちに、じつとりと調和され、一つになつてゐるものだということに驚かされる。最初、母と子とを見比べて、よく似ていると思う。次に父と子とを見比べてやはり似ていると思う。そして、最後に父と母とを見比べて全く類似のないのを何となく不思議に思うことがある。

3 Translate into English: [30 marks]

その後、一年おいて、二年おいて、ときには三年おいて、香港に立寄るたびに張と会い、散歩したり食事したりしながら——すつかり食事が終つてからときめたが——この命題をだしてみるのだが、いつも彼は頭をひねつて考え方か、苦笑するか、もうちょっと待つてくれというばかりだつた。私は私で彼にたずねるだけで何の知恵も浮ばなかつたから、謎は何年たつても謎のまま苛酷の顔つきの朦朧として漂つている。もしそんな妙手があるものとすればみんながみんな使いたがるだろうし、そういう状況は続発しつづけるばかりなのだから、そうなれば妙手はたちまち妙手でなくなる。だから、やつぱり謎のままでこれはのこるしかないのかもしかなかつた。しかし、ときには、たとえば張があるとき老舗の話をしてくれたとき、何か強烈な暗示をうけたような気がした。ずっと以前のことになるが文学代表団の団長として老舗は日本を訪れたが、その帰途に香港に立寄つたことがある。張はある新聞にインタビュー記事を書くようたのまれてホテルへでかけた。老舗は張に会うことは会つてくれたが、何も記事になるようなことは語つてくれなかつた。革命後の知識人の生活はどうですかと、しつこくたずねたのだけれど、そのたびにはぐらかされた。あまりそれが度重なるので、張は、老舗はもう作家として衰退してしまつたのではないかとさえ考えはじめた。ところがそのうちに老舗は田舎料理の話をはじめ、三時間にわたつて滔々とよどみなく描写しつづけた。重慶か、成都か。どこかそのあたりの古い町には何百年と火を絶やしたことのない巨大な鉄釜こうがまがあり、ネギ、白菜、芋、牛の頭、豚の足、何でもかでもかたつばしからほうりこんでぐらぐらと煮たてる。

4 Translate into English: [30 marks]

先頃、友人が仕事で訪れたスペインで災難にあった。乗っていたタクシーが止まった時、外からドアを開けられ、ひざ元のハンドバッグが消えた。海外ではありふれた手口らしい。一番の心残りは、住所録と携帯電話だという。旅券やカードは再発行できるが、バイクとともに走り去った個人情報は戻らない。異国での不運を知らせるすべさえない相手もいる。結局、彼女は「本当の友からはいづれ連絡がある」と気持ちを整理したそうだ。この際、交遊の濃淡を顧みてみよう。盗みにあわずとも、住所録をふるいにかける時節が近づいた。今年の付き合いを振り返りながら、名刺の束から住所録に「定住」させる知古がいる。目鼻立ちが浮かばず、パソコンの記録から退く名前もある。◆ お年玉つき年賀はがきがうりだされた。民営化された日本郵政グループは、記念の年に、この伝統商品を39億枚さばく。「年賀状は、贈り物だと思う」と広告にある。なるほど、元日の郵便受けにはお義理の「送り物」も多かった。50円で関係が一年延びるなら安い。5円乗せて「カーボンオフセット（温室効果ガス打ち消し）年賀」にすると、寄付金が風力発電などに回る。送受どちらにしろ、温暖化との闘いに参加した気分になれば、義理の賀状にもいくらか潤いが出る。

‘Tensei jingo’, *Asahi shinbun*, 21 December 2007.

END OF PAPER